



ALUMINA CARRIER FOR PIGMENT AND PRODUCTION THEREOF

Patent number:	JP61179264 (A)	Also published as:
Publication date:	1986-08-11	 JP5074620 (B)
Inventor(s):	WAKASA MASANOBU; FUJII SHIGEO; TAKEDA TSUNESHI	 JP1852876 (C)
Applicant(s):	KAO CORP	
Classification:		
- international:	C09C1/00; C09B67/02; C09B67/20; C09C1/40; C09C1/00; C09B67/00; C09C1/40; (IPC1-7): C09B67/20; C09C1/40	
- european:		
Application number:	JP19850020255 19850205	
Priority number(s):	JP19850020255 19850205	

Abstract of JP 61179264 (A)

PURPOSE:To obtain an alumina carrier having such excellent properties that it can adsorb an org. dye to allow the dye to be enclosed therein, its pores can be sealed and it absorbs less visible light, by treating an aq. suspension of porous intermediate alumina with an acid and drying or firing it.

CONSTITUTION:An aq. dispersion of porous intermediate alumina is treated with an acid at a pH of 2-6.5 under an equilibrium condition and the treated alumina is dried and/or fired to obtain the desired alumina carrier which is porous alumina which has a specific surface area of 10m²/g or above and a particle size of 0.03-100μ, whose 2.4wt% aq. dispersion has a pH of 3.0-6.5 and at least part of which is converted into hydrated alumina when treated with water at 70-250 deg.C.; Alternatively, the alumina carrier can be prepd. in such a manner (i) that hydrated alumina or porous intermediate alumina is mixed with an ammonium salt powder or is brought into contact with an ammonium salt soln. and the mixture is fired, or (ii) that hydrated alumina or porous intermediate alumina is fired in a hydrogen chloride atmosphere.

.....
Data supplied from the **esp@cenet** database — Worldwide

公開実用 昭和61—179264

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U) 昭61-179264

⑬ Int.Cl.⁴

E 05 B 9/08

識別記号

庁内整理番号

7635-2E

⑭ 公開 昭和61年(1986)11月8日

審査請求 未請求 (全 頁)

⑮ 考案の名称 シリンダ錠の取付構造

⑯ 実 願 昭60-61894

⑰ 出 願 昭60(1985)4月26日

⑱ 考 案 者 山 下 龍 郎 宮崎県宮崎郡佐土原町大字下那珂字和田山3700番地 株式
会社本田ロック内

⑲ 考 案 者 河 野 稔 宮崎県宮崎郡佐土原町大字下那珂字和田山3700番地 株式
会社本田ロック内

⑳ 考 案 者 黒 木 重 宣 宮崎県宮崎郡佐土原町大字下那珂字和田山3700番地 株式
会社本田ロック内

㉑ 出 願 人 株式会社 本田ロック 宮崎県宮崎郡佐土原町大字下那珂字和田山3700番地
㉒ 代 理 人 弁理士 渡 部 敏 彦 外1名



明 細 書

1. 考案の名称

シリンダ錠の取付構造

2. 実用新案登録請求の範囲

1. シリンダ錠の外筒をケースに嵌挿収納するシリンダ錠の取付構造において、前記外筒の外周面と、該外筒を内嵌する前記ケースの収納部の内周面とを夫々断面角形に形成したことを特徴とするシリンダ錠の取付構造。

3. 考案の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本考案は、特に自動四輪車等のシリンダ錠のハンドルケースへの取付構造に関する。

(従来技術及びその問題点)

第3図に示すように、従来、車輛、例えば自動四輪車等に使用されているシリンダ錠1は、内筒2に外嵌される円筒状の外筒3をハンドルケースに一体的に突出形成した中空円筒状の取付用ケース4の略円柱状の収納部4aに内嵌して該取付用



ケース４に取付けているが、この外筒３の外周面所定箇所には断面角形の係合突起３aが外径方向に例えば２個突設されており、一方、取付用ケース４の収納部４aの内周面所定箇所には前記各係合突起３a，３aに対応して断面角形の係合凹溝４a'，４a'が形成されている。そしてこれらの各係合突起３a，３aをケース４の各係合凹溝４a'，４a'内に嵌合させることにより当該取付用ケース４に外筒３を回動不能に嵌合させている。

しかしながらかかる従来例においては、前述のように外筒３の外周面と収納部４a内周面は断面円形なので、各係合突起３a，３aと各係合凹溝４a'，４a'との係合は保つことができるが、その他の部分は外筒３の外周面と取付用ケース４の収納部４aの内周面とは互いに係止される部分がないため、この収納部４aの内径が外筒３の外径よりも大きくて両者間に間隙が生じた場合、シリンダ錠１の外筒３が取付用ケース４内で上下方向にガタ付くという不具合がある。特に外筒３は突起部３a，３aを形成するため、その外周面の



真円度が成型加工上出しづらく、これによるガタ付きも出やすい。

このため、取付用ケース4を介してシリンダ錠1を乗用車のドアに装着した場合には、当該シリンダ錠1の取付位置が乗員の座席に近い位置にあるため、車輛の走行等による振動によって上記ガタ付きによる発生音が不快音となる等の問題もあった。

(考案の目的)

本考案は上記事情に鑑みてなされたもので、ケース内にシリンダ錠の外筒をガタ付かないように嵌挿収納するようにしたシリンダ錠の取付構造を提供することを目的とする。

(考案の概要)

上記目的を達成するために本考案においては、シリンダ錠の外筒をケースに嵌挿収納するシリンダ錠の取付構造において、前記外筒の外周面と、該外筒を内嵌する前記ケースの収納部の内周面とを夫々断面角形に形成した構成とするものである。

(考案の実施例)

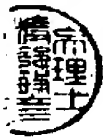


以下本考案の一実施例を添付図面に基づいて説明する。

第1乃至第2図は本考案に係るシリンダ錠の取付構造を示し、シリンダ錠10は内筒12、該内筒12を収納する外筒13、該外筒13の外周面所定箇所を外嵌された係合リング14等から構成され、このシリンダ錠10は取付用ケース15内に嵌挿収納されている。

内筒12にはキーガイド溝12c（第2図）が軸心に沿って穿設され、この内筒12の一端12a近傍の外周面には内筒12を外筒13に挿入した時に位置決めをする係止片12b、12bが突設形成されている。

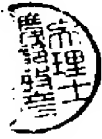
外筒13は四面13p、13q、13r、13sを有する略直方体形状をなし、上下面13q、13sは上下方向のガタ規制を、両側面13p、13rは横方向のガタ規制を果たす。両側面13p、13rの所定箇所には略方形状の係合突起13b、13cが夫々突設されている。これらの係合突起13b、13cは夫々同じ肉厚を有し、且つその幅寸法が



異なり、例えば係合突起13bの幅の方が係合突起13cの幅よりも幅広となっている。これらの各係合突起13b, 13cは後述する取付用ケース15の各切欠15d, 15e内に夫々嵌合し、且つシリンダ錠10を取付用ケース15へ組込む時の逆組み防止の機能を果たす。

外筒13の一端近傍の外周面には係合リング14が装着され、該係合リング14により外筒13が取付用ケース15内に弾発保持される。

外筒13には断面略長円形状をなす取付用ケース15が外嵌される。この取付用ケース15の両端15a, 15bは夫々開口端をなし、一端15aはフランジをなし、内部には軸心に沿って前記外筒13と略同形の直方体形状の収納部15cが形成されている。該収納部15cの対向両側面には外筒13の各係合突起13b, 13cの夫々の幅と同幅を持つ切欠15d, 15eがフランジ15aより後端に向かって軸方向に全長に亘って形成され、取付用ケース15を外筒13に嵌合した状態において各切欠15d, 15e内に前記係合突起



13b, 13c が第2図に示すように夫々嵌合収納されるようになっている。

上記構成のシリンダ錠10の外筒13の取付用ケース15への取付けについては、まず係合リング14を装着した外筒13を取付用ケース15の他端15b側から取付用ケース15の収納部15cに挿入して嵌合させる。この嵌合状態において、取付用ケース15の収納部15c及び外筒13の嵌合面は夫々角形をなしているため、上下方向及び横方向のガタ付きがなくなり、両者はガタ付くことなく嵌合する。

この後外筒13の開口端13a側から内筒12を挿入し、各係止突片12b, 12bを取付用ケース15のフランジ15aに当接させ、外筒13の後端から突出する当該内筒12の後端にロック用のカムプレート（図示せず）を装着する。

（考案の効果）

以上詳述した如く本考案によれば、シリンダ錠の外筒をケースに嵌挿収納するシリンダ錠の取付構造において、前記外筒の外周面と、該外筒を内



嵌する前記ケースの収納部の内周面とを夫々断面角形に形成したので、上下方向及び横方向が面突き当てとなり、成型加工精度も維持しやすく、ガタ付きが生じないという効果がある。

4. 図面の簡単な説明

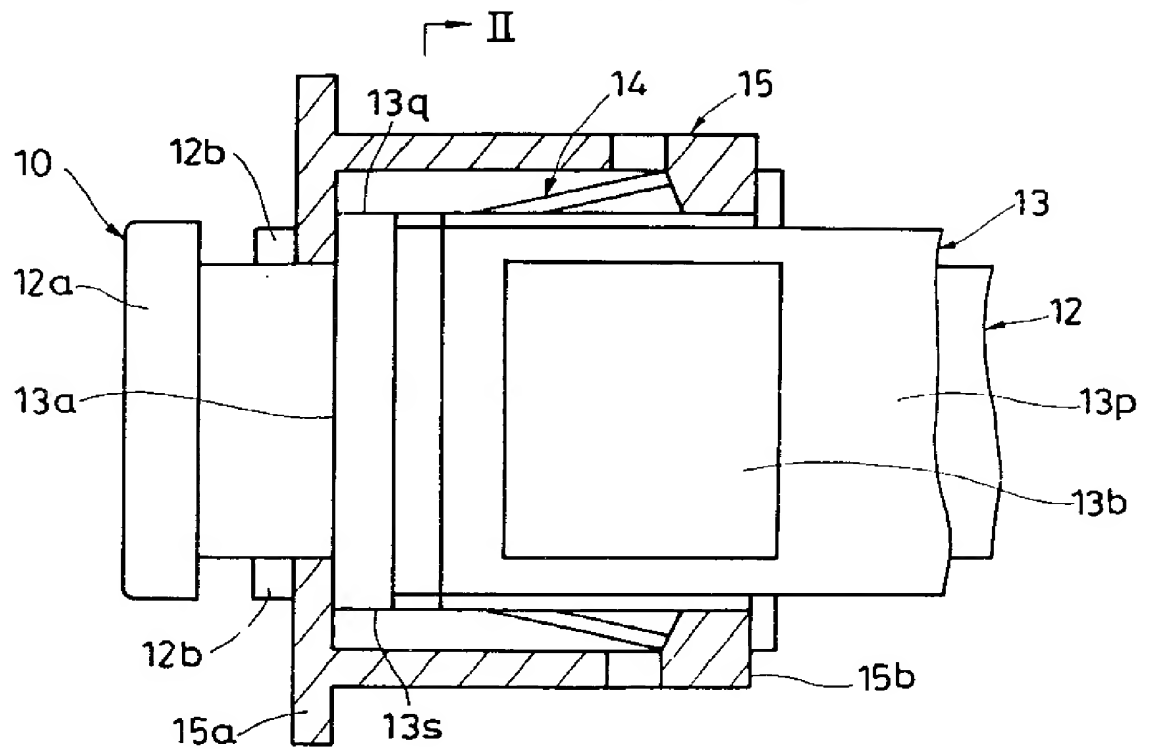
第1図は本考案を適用したシリンダ錠の取付構造の要部断面図、第2図は第1図のⅡ-Ⅱ矢視図、第3図はシリンダ錠の取付構造の従来例を示す断面図である。

10…シリンダ錠、12…内筒、13…外筒、
14…係合リング、15…ケース。

出願人 株式会社 本田 ロック

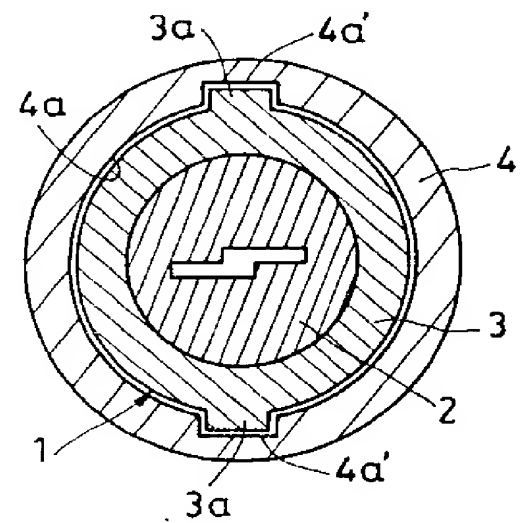
代理人 弁理士 渡部 敏彦
同 長門 侃二

第 1 図

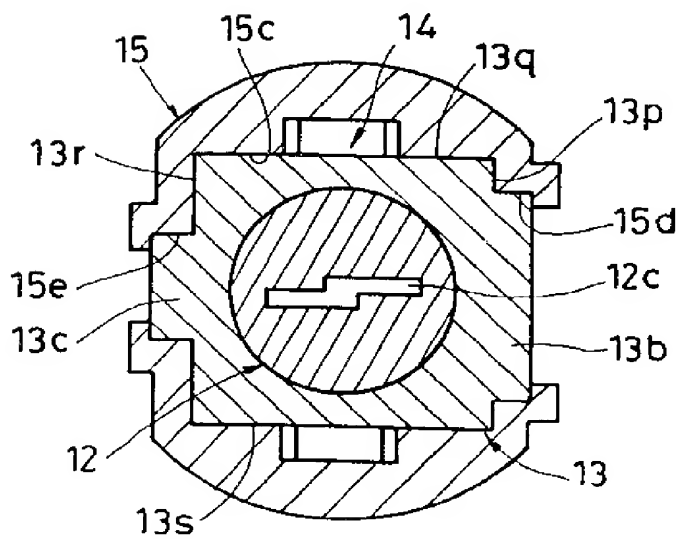


II

第 3 図



第 2 図



559

代理人 弁理士 渡部 敏彦
実開61-179264名

手 続 補 正 書 (自 発)

昭和60年8月23日

特許庁長官 宇 賀 道 郎 殿

1. 事件の表示

昭和60年実用新案登録願第061894号

適

2. 考案の名称

シリンダ錠の取付構造

3. 補正をする者

事件との関係 実用新案登録出願人

住所 宮崎県宮崎郡佐土原町大字下那珂字
和田山3700番地

名称 株 式 会 社 本 田 ロ ッ ク
代表者 齋 藤 音 次

4. 代 理 人

住所 東京都港区虎ノ門2丁目6番4号

第 1 1 森 ビ ル 7 階

〒105 電話 03(581)2415(代)

氏名 弁理士(8188) 渡 部 敏 彦

5. 補正の対象

明細書の考案の詳細な説明の欄及び図面

方 式
審 査

北 沢

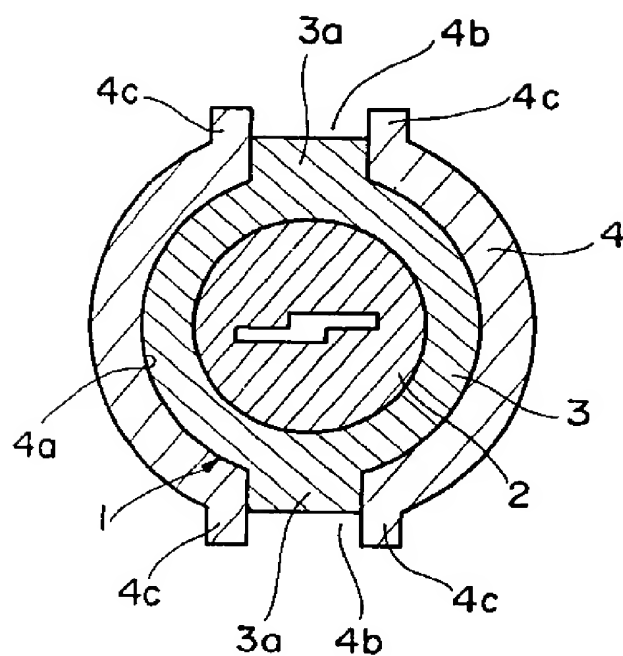


6. 補正の内容

- (1) 本願の明細書第1頁第18行目「中空円筒状」とあるを「断面略円形」に補正する。
- (2) 同第2頁第4行目から第9行目「内周面所定～嵌合させている。」とあるを「直径上両端は前記各係合突起3a, 3aに対応して開口部4b, 4bをなし、且つ各開口部4b, 4bの両端には夫々係止部4cが形成されている。そして前記各係合突起3a, 3aをケース4の各開口部4b, 4b内に嵌合させて各係止部4cの各内側端面によって各係合突起3a, 3aをケース4に係止させている。」に補正する。
- (3) 同頁第12行目から第18行目「各係合凹溝～ケース4内で」とあるを「各開口部4b, 4bとの係合は各係止部4cによって図中左右方向のガタ付きがなく保つことができるが、図中」に補正する。
- (4) 同頁第19行目から第3頁第2行目「特に外筒3～出やすい。」とあるを削除する。
- (5) 本願明細書に添付した図面の第3図を別紙の通りに補正する。

以 上

第3図



562 (木) 60.8.23

代理人 弁理士 渡部 敏彦

実開61-179264